

「市民税減税」でくらしと福祉を切り捨ててきた

河村市政の継続ノー

「減税」のためにくらし負担増

「減税」を行うために、独自の軽減措置がとられず**保険料などが大幅値上げ**になっています。

国保料 8.7万円 → 10.9万円
2016年（介護分除く1人あたり平均） 2024年

介護保険料 4.9万円 → 8.3万円
2009年（基準額） 2024年

県下で
一番高い

来年10月から
水道料 年間**6000**円値上げ
平均使用量が1か月8㎡の単身世帯の場合

県内5割の自治体を実施

市独自の
**介護保険料の
減免措置なし**

ご存じですか？

「減税」は多数の市民の暮らしの支援になっていません

市民の半数は減税0円。年収700万円の人でも月758円、年1万円にもなりません（モデルケースの場合）。

市民税減税100億円は、一握りの金持ちをのぞき、圧倒的市民は暮らしの支援になっていません。

あなたの減税額は？

年収	減税（年額）
255万円	0円
300万円	1300円
500万円	5000円
700万円	9100円
1000万円	1万6200円

モデルケース
夫婦と子ども2人の世帯。配偶者は同一生計配偶者。子どものうち控除対象扶養親族は1人（特定扶養親族）。減免の適用なし。一定の社会保険料を控除の場合

「減税」によって医療・福祉を切り捨て

「減税」によって税収減をつくり、福祉や医療を削減してきたのが河村市政です。

市立病院5→0

5つあった市立病院はゼロに。感染症対策や不採算の医療など地域医療に対する市の責任を放棄しかねない事態です。

2000人以上待機者がいるのに
唯一の市直営の**特養ホームを廃止**

図書館を縮小・再編

小学校給食調理を民間委託

市民共同の女性代表と一緒に あなたの暮らしを支える市政に

小学校給食費無償化 で負担減 年約 **5万円**

奨学金返済支援制度 月 **2万円**をつくる

国民健康保険料 年 **1万円**引き下げ

加齢性難聴者 **補聴器購入5万円助成**

水道料金 年 **6000円**の値上げ中止



不要不急の大型事業・天守閣木造復元は中止

財源は /

市民税減税 毎年 **100**億円をやめて暮らしに回します

これもやります

- 介護保険料・利用料の独自軽減制度
- 敬老パス利用制限を撤廃
- 女性の貧困なくすために経済的支援やワンストップ相談充実
- 地元業者による住宅リフォームや断熱改修に補助
- 暮らしをささえ、災害から市民を守るマンパワー充実
- ヒートアイランド現象を和らげ市民を暑さから守る

総選挙で自民・公明が過半数割れ

いま大きく政治が変わるとき

市民共同の女性代表で 市政を大きく変えよう

日本共産党

総選挙では自民・公明の議席が過半数割れました。この結果をつくりだしたのは自民党の裏金問題と非公認候補への2000万円支給をスクープした「しんぶん赤旗」と日本共産党の論戦の力です。

この新しい情勢のもとで、これまで自民党が反対してきた企業団体献金の禁止や選択的夫婦別姓なども、世論と運動しだいで実現の道が開かれました。今度の名古屋の政治戦は、市民の願いが実現できる政治に変える大チャンスです。



市民の共同の力で実現

子ども
医療費

18歳まで完全無料に

子どもの医療費無料化は1990年代後半はまだ3歳児未満まででしたが、市民の署名運動などで小学校卒業まで→中学卒業までと、どんどん広げ、ついに2022年1月から通院も18歳まで無料になりました。

敬老
パス

2011年の値上げ計画をストップ JR・私鉄へ利用拡大

2011年に行われた「事業仕分け」で敬老パスは「見直し」と判定されましたが、市民が署名運動を展開。65歳からの敬老パスを堅持させ、負担金引き上げを断念させました。さらに、粘り強くJR・私鉄への利用拡大の運動をすすめ、JR・私鉄・民間バスでも使えるようになりました。



「敬老バスと地域交通拡充で元気な名古屋をつくる会」発足集会

元副市長

河村市政「丸ごと引き継ぐ」

元副市長は、河村前市長が後継者に指名。副市長として、くらしと福祉を切り捨ててきた「市民税減税」市政をおし進めてきた張本人です。元副市長は河村市政を「丸ごと引き継ぐ」と明言しています。

元副市長を推薦したのは日本保守党。日本の過去の侵略戦争を美化し、9条改憲を主張しています。元副市長は同党の事務局次長でもあり、このような人物を市長にしているのが問われます。

前参議院議員

河村市政への評価不明

前参議院議員は市民税減税や、減税による福祉削減の河村市政について評価を明らかにしていません。

自身のホームページでは「名古屋城天守閣の再建推進」と明記しています。

市民の運動が政治を変える一番のチカラ

市民共同の女性代表で「市民が主人公」の市政をつくらう



「学校給食を無償化してほしい」「中小企業を応援してほしい」——など市民の切実な願いを出発点にした運動が政治を変えていく一番の力です。女性代表はこうした市民運動の中心になって奮闘してきた市民共同の代表です。

女性代表と一緒に市民の願いがまっすぐ届く「市民が主人公」の市政をつくりましょう。

◀女性代表と市政を変えよう！スタート集会